

こんな IT 投資は、失敗する。

2005/01/31 平山経営事務所

「多額の投資をしたシステムが効果を上げていない。」よく聞かれる話ですが、どこに問題があったのでしょうか。今回は、失敗に陥りやすいケースについてまとめてみました。

1. 戦略のない投資

戦略が明確でないままの投資計画や、戦略とシステムコンセプトの乖離、間違ったシステムの選択などにより効果が上がらない。

2. トップ主導の場合

理想を追いすぎて、現場の使い勝手が悪く実務で活用されず、効果が上がらない。

3. 現場主導の場合

現場の使い易さを考慮するあまり、他の部門を含めた全体としての、効果が上がらない。

4. 情報システム担当者主導の場合

技術的な興味が強く、経営的な評価が甘くなったり、「はじめに予算ありき」の導入計画になりやすい。

5. ベンダー主導の場合

他社の最新事例を無理やり押し付ける結果となって、トップとの意識のずれ、現場の使い勝手の悪さを生み、上手く稼動しない。

社内に、全社的な「IT化投資」とその「効果」について冷静な目で評価できる体制がない場合、自社のみでIT導入進めることは、効率的ではありません。

また、ITベンダーに「まる投げ」することはさらに危険です。

こんな場合、最低限のITに関する知識をつけるとともに信頼できるコンサルタントを活用することが有効です。